



社民党公認「小野よしみ」候補当選にむけて



久原 和弘

私は政党が選挙戦を闘うに当たって「党の公認候補を立てて闘う」ことは当たり前だと思っ

る。国政選挙の場合は、党の力量によって「党を前進させる」ことを目標に、他党の候補を推薦するかしないかを決めることもある。

しかし、地方議会ととりわけ県議選に候補を擁立するかどうかの議論は論外である。候補を立てない党など、党としての資格がないと言うか存在価値がない。それは党ではなく仲良しクラブである。私は思う。

だが、私は年齢的にも体力的にも再選は難しい。今年、私の息子が大分に帰ってきたが、直ぐに立候補するのは厳しい。誰か適任者はいないかと思案していた時「小野よしみさん」が、是非、闘いたいと言っているとい

「う一報が届いた。「え、ありがたい！」なんとお礼を言っ

たい！」なんてお礼を言ったい！」なんてお礼を言ったい！」なんてお礼を言ったい！」なんてお礼を言ったい！」

か分からない。「今の党の力量では？」と、言う意見もある。しかし展望は闘いの中から切り開くものだ。そうしてこそ目的は達成される。みんなで一致団結して闘っていきましょう。

社民党の明るい未来のために「小野よしみ」の勝利あるのみ。社民党を支える県下の仲間の方のみなさん！大分市に集中しよう！



親兄弟、親戚、同級同窓生、友人知人、住所録・年賀はがき等を確かめ、久し振りに大分市へ訪れよう。もちろん大分市在住の仲間は懸命に頑張っている。

来年の四月に向かって、全ての力を社民党公認「小野よしみ」にみんなの力を結集しよう！

社民党県連合代表 久原和弘

第二十七回 大分支部連合 定期大会開催

社民党大分支部連合（二村誠一代表）は、九月九日、第二十七回定期大会を開催しました。

二村代表は、あいさつの中で、

「来年の県議会議員選挙には候補を擁立して闘うので、全党員一丸となつてがんばろう！」と檄を飛ばした。

続いて高野幹事長から党務報告・運動方針案が提案されました。

特に来年の統一地方自治体選挙方針では、県議選に、小野祥美常任幹事を擁立して闘うことの提案がありました。



小野祥美さんの出身支部からは「高齢のお母さんと二人暮らしの中で」との並み並みならぬ小野さんの決意に敬意を表します。その決意を無駄にしないように、小野さんの出身支部として、皆さんの先頭に立つて頑張ります。」と、力強い発言がありました。

運動方針を満場一致で承認した後、小野よしみ立候補予定者は、「参議院選挙を闘う中で多くの社

民党支持者の熱のこもった応援、激励をいただきました。一議席もない県議会に社民党の灯りを点したい」と決意の一端を述べました。

最後に、二村代表の団結ガンバローで閉会しました。



小野よしみの熱き思い！

さる七月十日投票の参議選にて社民党は、国政政党として生き残ることができました。

選挙戦を闘う中、多くの社民党支持者の方々の熱のこもった応援や励ましをいただきました。それは今までにない体験でした。本当に応援してくださる方が熱い。そして、たくさんの方が熱い。ありがとうございました。

社民党が生き残ったこれから三年、日本の国にとって憲法改悪など本場に厳しい状況が訪れます。

その時、社民党が国政政党でいて良かったという状況を作り出していきたい。そのためには、一議席もない大分県議会に社民党の灯を点したいと強く思いました。



街頭で訴える小野祥美さん

国政では議員二名の小政党、どんなに頑張っても政権交代には程遠い。山が高すぎて心が折れそう。でも何もしない訳にはいかない。全くの無名、何一つ選挙に出て勝てる要素はありません。選挙戦を闘うには、地盤、（裏面へ続く）

安倍元首相の国葬を中止せよ！



カバン、看板が必要と言われませんが何一つありません。しかし情熱はあります。体力もあります。そして、こんな小野よしみを応援してくれる党員の素晴らしい仲間がいます。誰にも負けない決意でがんばっていきます。どうか小野よしみに、お力を与えて下さい。

よろしくお願い申し上げます。
小野 よしみ

全国でも抗議行動が！



全国で安倍元首相の国葬に抗議する集会が開催される中、大分県でも九月二十六日、午後五時半より大分駅北口で「平和をめざすオール大分」主催の集会が開催され、社民党大分県連合より八名が参加しました。

主催者代表挨拶の後、立憲民主党、日本共産党、社民党の連帯の挨拶があり、社民党からは、小野よしみ常任幹事が力強い挨拶を行いました。各団体のリレートークが終わると、♪「国葬反対の歌」を全員合唱、最後にシュプレヒコールで閉会となりました。

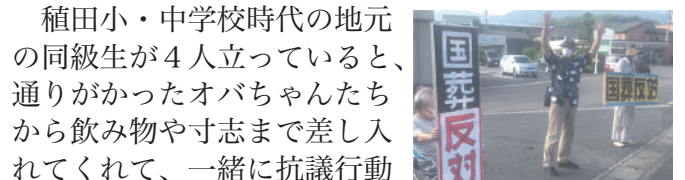


党员・党友 登場！

各種メディアのアンケート調査で、過半数以上が安倍元首相の国葬に反対と発表！当然のように全国で、国葬に対して抗議活動が燎原の火のごとく広まった。



宗方支部も定例会議で、国葬反対の早朝のスタンディングを行う事を決定。9月26日までに7回、抗議行動を行いました。地元での3回のスタンディングでは、田中・片山党员の同級生、利光、二宮さん2人が駆けつけてくれ、早朝7時15分から8時半まで一緒に抗議行動を行いました。



植田小・中学校時代の地元の同級生が4人立っていると、通りがかったオバちゃんたちから飲み物や寸志まで差し入れてくれて、一緒に抗議行動にも参加、そして後片付けまで手伝ってくれました。また南大分支部の岡部党员、全通OB加藤さんもスタンディングに参加してくれました。



ズブズブ 旧統一教会と自民党！ ♪ヨシミが吠える～！

ついに9月27日、国葬が行なわれた。あれだけの国民の反対があつたにもかかわらず。私たちの税金を使った国葬に、どんな意味があつたのか？憤りしか残らない。

しかし、この間、自民党と統一協会のあまりにもひどい癒着、いや癒着というより一体となった政治の乗っ取りが明らかになってきている。マスコミも徐々に自民党政府に対しての切り込みが多くなってた。マスコミの力は大きい。

日本の政治が腐敗した大きなポイントは3つある。内閣人事局が自民党の手に落ちた。その事で憲法の番人である内閣法制局が自民党の言いなりになり、更には最高裁判所の人事も取られる事で、高等裁判所で勝った判決が覆される。日本の民主主義はどこに行ったのか？本当に悲しい。

でも悲しんではいけない。私たちの今まで、いろんな闘争を経験して、怒りを表現出来る世代が頑張る事で、明るい未来につなげることができないだろうか？そして若い人が、もっと自分の怒りを表現してもいいんだと目覚める時まで繋いでいきたい。

自民党にとって「黄金の3年間」にさせない。しんどいけど闘いは続く。

戦争に行つて戦うんじゃないから、未来のためなんだから！一緒に頑張りましょう！